

平成 29 年度中野区学力にかかわる調査の結果について

1 調査の趣旨

- 各学校において、自校の児童・生徒一人ひとりの学習状況を踏まえて、教育課程や指導の改善・充実を図る。
- 調査の結果を基に、児童・生徒自身が学習上の課題を認識し、その後の学習に役立てる。
- 各教科の目標や内容に照らした学習の実施状況を把握し、区内小・中学校における教育課程の実施状況についての課題を明らかにして教育委員会の施策及び事業に生かす。

2 調査の実施概要

(1) 対象学年及び教科 ※ 調査範囲は前年度の学習範囲

学年	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3
対象人数 (人)	1,627	1,511	1,472	1,403	1,350	999	984	973
国語	○	○	○	○	○	○	○	○
社会					○	○	○	○
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○
理科					○	○	○	○
英語							○	○

(2) 実施方法 ペーパーテスト形式による調査

(3) 実施時期 小学校：平成 29 年 4 月 10 日～14 日の中で 1 日 中学校：平成 29 年 4 月 14 日

3 調査の方法・内容

(1) 本調査では、学習指導要領の目標、内容の学習状況を把握するため、教科の観点ごとに問題を作成した。

(2) 出題した学習内容や問題の形式、難易度等を考慮し、「おおむね満足である状況」を示す数値(目標値)をあらかじめ目標として設置した。この目標値に到達した児童・生徒の割合(通過率)を基に、学習状況の把握に努めた。

※本調査では、通過率が 70%であれば、区内の 70%の児童・生徒が、「おおむね満足できる状況」にあることを示しており、全ての教科の各観点の通過率を 70%以上にするを目標としている。

4 調査結果の概要

(1) 小学校・中学校ともに、全学年・全教科の平均正答率は、目標値と同程度もしくは目標値を上回っていた。

(2) 通過率が 70%以上の項目は、全 86 項目中 54 項目で、昨年度、一昨年度に比べ達成した項目数が増加した。教科別では国語が 32 項目中 25 項目(昨年度 24 項目)、社会は 12 項目中 5 項目(昨年度 3 項目)、英語は 6 項目中 5 項目(昨年度 4 項目)が増加した。校種別では、中学校で昨年度 17 項目から 22 項目へと増加している。

年 度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
項目数 (全 86 項目)	42	52	54
項目数の割合 (%)	48.8	60.5	62.8

(3) 課題

①全ての教科において、いくつかの資料を比べたり関連付けたりする内容を記述する問題や、事象や実験・観察の結果を基に考察し自分の言葉で表現したり説明したりする問題で正答率が低く、無解答率も高いという傾向にある。理解するだけでなく、理解した内容からさらに思考を深め、表現する力の育成が引き続き、課題である。

②理科・社会については学習上重要な語句や用語の意味の理解が例年に引き続き課題が見られた。不十分であった。用語をただ暗記するだけでなく、自分の言葉で説明できる力を付けることが課題である。

5 今後の対応

(1) 本調査は全ての項目で通過率 70%を達成することを目標としている。「新しい中野をつくる 10 か年計画」(平成 28 年 4 月、中野区)では、経過目標として以下の成果指標と目標値を示した。

年 度	平成 26 年度実績	平成 32 年度	平成 37 年度
項目数 (全 86 項目)	38	61	69
項目数の割合 (%)	44.2	70	80

今後、達成できていない項目について各学校独自に詳細な分析を行い、具体的な取組を検討していく。

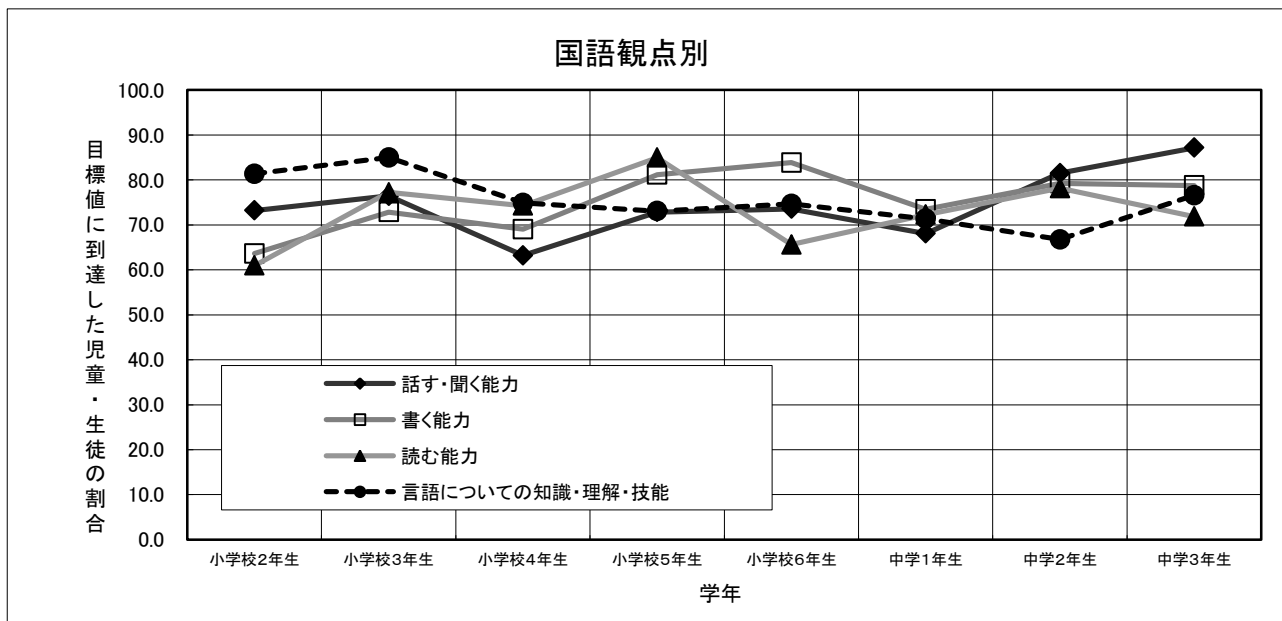
(2) 区全体の調査結果は教育委員会事務局で分析し、中野区教育委員会ホームページ上で公開する。なお、小・中学校に共通する課題についても検討し、その解決策を研修会等で提示する。

(3) 各学校においては自校の結果についての分析を行い、それに基づいた「授業改善プラン」を作成し、日々の授業改善を図る。併せて、分析結果等を、各学校のホームページ等にて公開する。特に、通過率が 70%に届かなかった観点については、具体的な取組を講じていく。

(4) 教員研修、特に、若手教員育成研修の充実に努め、教員の授業力の向上を図る。

6 調査結果

(1) 国語



【調査結果の分析】⇒「テキストから要点を取り出し、自分の考えをもつ力及び日常生活に生かす力の育成」

◆結果

- どの観点も、目標値に到達した児童・生徒が70%に達している学年が多く見られ、小学校3年生、5年生では、昨年度同様、全ての観点で目標値に達した児童の割合が70%を超えた。今年度は、中学校3年生においても全ての観点で目標値に達した生徒の割合が70%を超えた。

◆課題

- 「書くこと」については、小学校低学年から、文章を書くことの苦手感を取り除き、文章を書くことに慣れさせたり、文章を書くことの必要性に気付かせたりすることが必要である。
- 「話すこと・聞くこと」については、話の内容を正確に聞き取り、聞き取った内容を活用する力を身に付けさせる必要がある。
- 「読むこと」については、説明的な文章を読み取る力を身に付けさせる必要がある。

◆課題への対応

- 子どもたちが経験したことや想像したことの中から書くことを決めて文を書く活動を日常的に取り入れ、書くことのよさや重要性、どのように文を書くのかについて、実感することのできる学習活動を意図的に盛り込む。
- 大事なことを落とさずに聞いたり、話題に沿って話し合ったりする活動を、小学校低学年から繰り返し丁寧に指導するとともに、相手意識や目的意識をもって聞く場を設定する。
- 本文に書かれている内容を理解するだけでなく、事柄の順序などを考えながら内容を読み取ったり、文章の要点に注意しながら読み取ったりする力を高める学習活動を、継続的に行う。また、文章の中からキーワードを読み取ってメモをしたり、文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもたせたりする場を設定する。

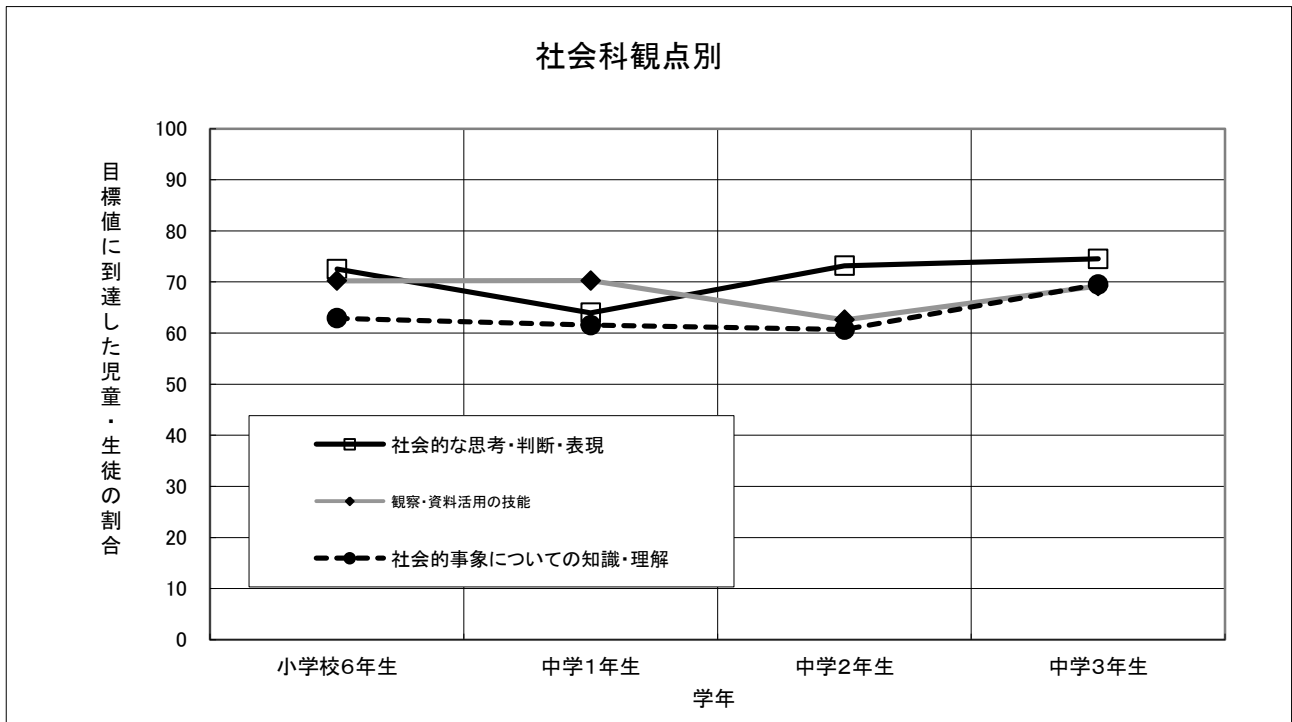
【参考】

年度		話す・聞く力			書く力			読む力			言語についての知識・理解・技能		
		H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
小学校	2年生	77.7	74.3	73.2	68.5	66.3	63.6	61.7	60.1	61.0	82.0	83.2	81.4
	3年生	73.0	75.8	76.4	77.3	72.1	72.9	76.3	75.8	77.2	84.6	83.3	85.0
	4年生	45.1	62.9	63.2	73.8	71.8	69.0	71.3	70.4	74.3	71.8	70.0	74.9
	5年生	65.3	71.3	72.8	75.5	78.7	81.2	81.6	81.8	85.0	69.5	71.2	73.1
	6年生	84.9	75.1	73.6	84.1	83.8	83.9	69.6	69.5	65.6	79.1	78.1	74.7
中学校	1年生	63.2	67.7	68.1	80.8	79.3	73.5	64.5	70.4	72.3	63.7	69.5	71.4
	2年生	82.1	84.9	81.5	78.5	81.6	79.3	77.9	76.9	78.2	64.3	63.3	66.8
	3年生	85.1	85.6	87.2	75.6	74.3	78.7	75.1	77.2	71.9	64.2	69.1	76.6

※ 太字・斜体は、平成28年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(2) 社会



【調査結果の分析】⇒「資料から情報を読み取り、多面的に考える力の育成」

◆結果

- ・小学6年生は、観点別の通過率において「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」で、3年連続70%を上回った。一方、全ての観点の割合が昨年度から下回る、又は同等となっており、「社会的事象についての知識・理解」は平成27年度と比べると9.1%減少した。
- ・中学校では、観点別の通過率において9項目中7項目で上昇が見られ、昨年度70%を超えた項目は1つであったが、3項目に増えた。一方、「観察・資料活用の技能」は、中学2・3年生ともに昨年度から減少し、知識・理解に関する正答率についても、目標値よりも下回っている問題が見られた。

◆課題

- ・「歴史的分野」については、1単位時間や単元を通して出てきたキーワードを用いて、児童・生徒自身が自分の言葉で学びとったことをノートに記述したり、発言したりする力を身に付ける必要がある。
- ・「地理的分野」については、都道府県や世界の国々の位置の把握など基礎的・基本的な内容の理解とともに、資料から情報を正確に読み取る力を身に付けることが求められる。

◆課題への対応

- ・実体験を伴うことが難しい教科であるが、導入で児童・生徒の興味・関心を引き出すような学習問題を設定できるようにし、問題解決的な学習を展開する。
- ・様々な調査や資料から情報を適切に調べたりまとめたりする技能を高める学習活動、資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察したり、表現したりする学習活動のさらなる充実を図る。
- ・小中連携での取組として、小学校では教室に日本地図を掲示し、中学校では世界地図を活用して授業を行う。国土の環境や気候と関連付け、人々の生活や産業についての特色を理解できるように学習の展開を工夫する。

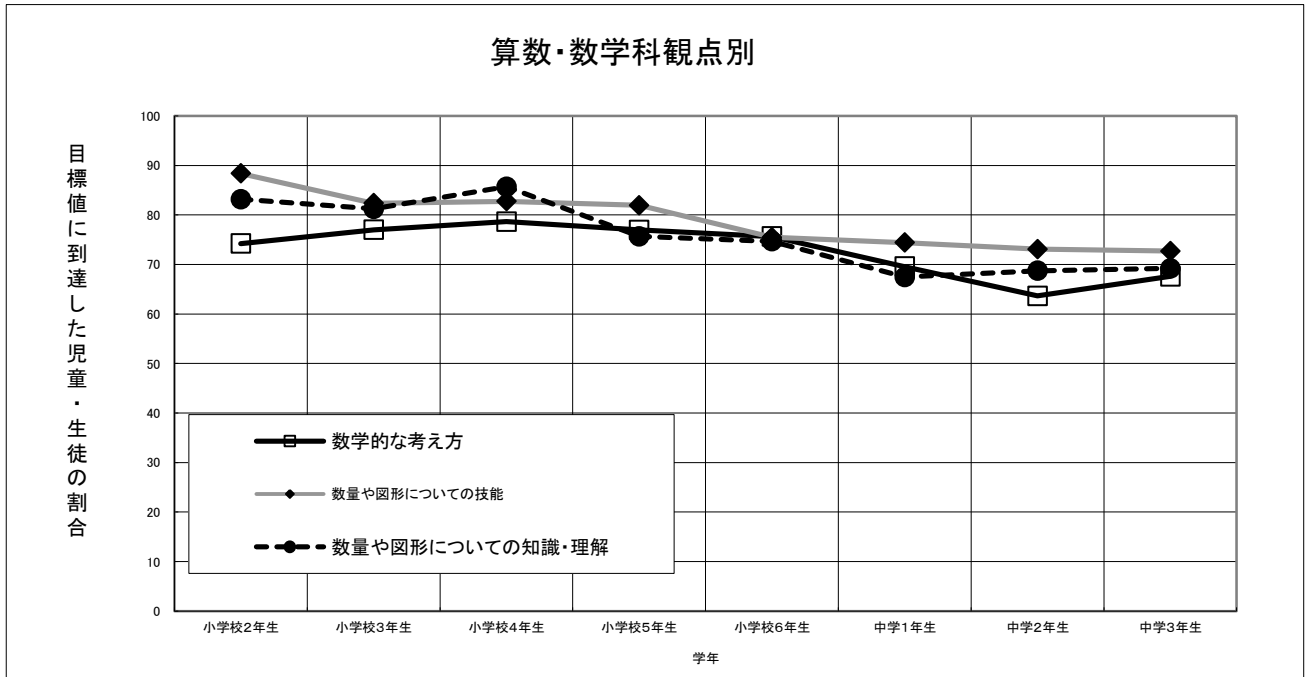
【参考】

		社会的な思考・判断・表現			観察・資料活用の技能			社会的事象についての知識・理解		
年度		H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
小	6年生	74.4	72.5	72.5	73.1	72.1	70.2	72.0	64.6	62.9
中	1年生	59.1	63.3	64.0	66.0	64.8	70.3	52.8	58.0	61.6
学校	2年生	65.0	68.0	73.2	64.9	64.3	62.6	59.3	60.6	60.7
	3年生	60.0	67.5	74.5	67.1	71.8	69.2	56.5	61.6	69.5

※ 太字・斜体は、平成28年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(3) 算数・数学



【調査結果の分析】⇒「基礎的・基本的な内容の確実な習得と筋道立てて考え説明する力の育成」

◆結果

- ・小学校では、全ての項目で目標値に到達した児童が70%に達した。中学校では、「数量や図形についての技能」の項目は全学年で70%に達し、中学2・3年生は全ての項目で昨年度より上昇した。
- ・「数学的な考え方」については、昨年度と同様に小・中学校共に、三角形の面積の性質を活用した問題において無解答率が高く、中学校では半数以上が無解答だった。

◆課題

- ・全ての学年において、問題の趣旨を理解し、算数・数学における用語・記号を用いて、数学的な見方・考え方を働かせて、筋道立てて考え説明する力を身に付ける必要がある。
- ・「数量や図形についての知識・理解」においては、作図、多角形の性質などの図形問題、また数直線上に示された大きな数の読み取り、絶対値の理解、分数の四則計算、ヒストグラムなどの基礎的・基本的な内容の理解を確実に習得させることが求められる。

◆課題への対応

- ・自分の考えを、根拠を明確にして筋道立てて説明させたり、友達の考えと交流させたりしながら、それぞれの考えのよさや共通点を話し合う活動を取り入れ、考えを深化させていく学習を展開する。
- ・日常生活と結び付けながら量感を実感できる活動を設ける。
- ・数量や図形についての知識・理解の定着に向け、東京ベーシックドリルやフォローアップシート等を活用する。
- ・全小・中学校で実施している習熟度別少人数指導において、児童・生徒一人ひとりの課題を把握し、個に応じた指導をさらに充実する。

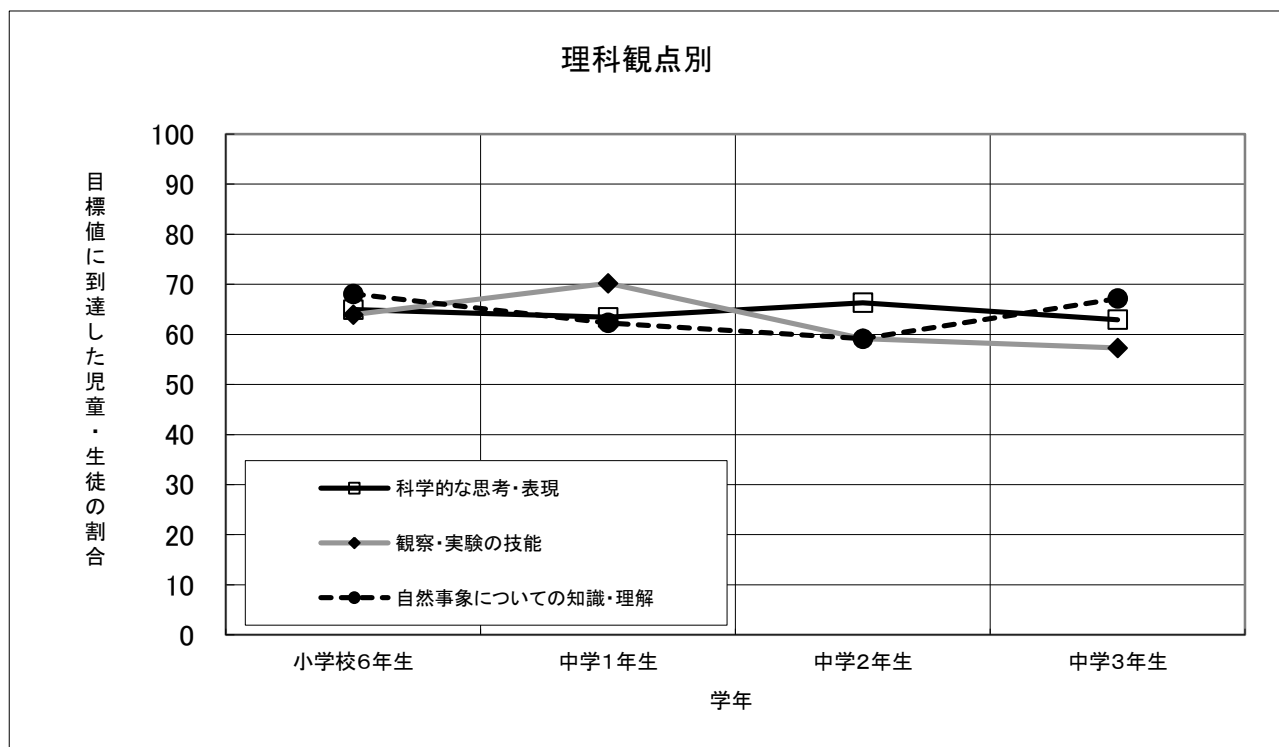
【参考】

	年度	数学的な考え方			数量や図形についての技能			数量や図形についての知識・理解		
		H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
小学校	2年生	75.4	75.4	74.2	87.1	88.5	88.4	83.7	84.2	83.2
	3年生	73.7	76.5	77.0	82.7	82.4	82.4	78.0	80.8	81.2
	4年生	72.6	80.5	78.6	79.9	83.0	82.8	84.8	85.1	85.7
	5年生	74.0	76.1	77.0	79.3	80.2	81.9	74.5	74.2	75.7
	6年生	74.3	76.5	75.6	77.7	76.6	75.5	76.7	77.4	74.7
中学校	1年生	65.7	71.2	69.6	69.5	74.4	74.7	63.2	67.5	66.0
	2年生	58.4	58.6	63.7	73.6	71.3	73.1	64.8	67.1	68.7
	3年生	62.6	64.6	67.6	68.9	71.7	72.7	63.1	64.8	69.2

※ 太字・斜体は、平成28年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(4) 理科



【調査結果の分析】⇒「児童・生徒が問題に主体的に取り組み、科学的に解決する力の育成」

◆結果

- ・小学校では目標値を達成した児童の割合は全ての観点で昨年度より減少した。中学校では9項目中6項目で数値が上昇しており、特に「科学的な思考・表現」については中学校全学年において2年連続増加した。
- ・目標値に到達した児童・生徒割合が70%に達した観点は中学1年生の「観察・実験の技能」のみであった。

◆課題

- ・「科学的な思考・表現」では、実験結果やグラフ等から客観的に読み取り、自分の考えを表現する力を育成することが求められる。
- ・「観察・実験の技能」では、A区分の実験器具はいくつかの実験で共通で用いる物があり定着が見られるが、B区分の観察器具については使用頻度が低いため定着も低く、観察器具を十分に操作できる技能を身に付ける必要がある。
- ・「自然事象についての知識・理解」では、科学的語句の定着を図ることが求められる。

◆課題への対応

- ・「科学的な思考・表現」を上げていくためには、普段の授業から理科的な見方・考え方を働かせるように授業を構成していくことが大切である。また、児童・生徒が、自分が導き出した考えを、友達との考えと交流することで、より妥当な考えをつくりだしていく活動を設ける。
- ・B区分の観察道具については、授業中だけでなく教室や自宅などでも使えるようにし、使用頻度を高めて児童・生徒が親しみをもって操作できるようにする。
- ・科学的語句の定着については、教師が日常の授業で正しく使うようにする(例:×ふたば、○子葉)。また、児童・生徒には科学的語句をキーワードとして結論や振り返りを書かせるなど科学的語句を使う機会を増やす等の工夫をする。

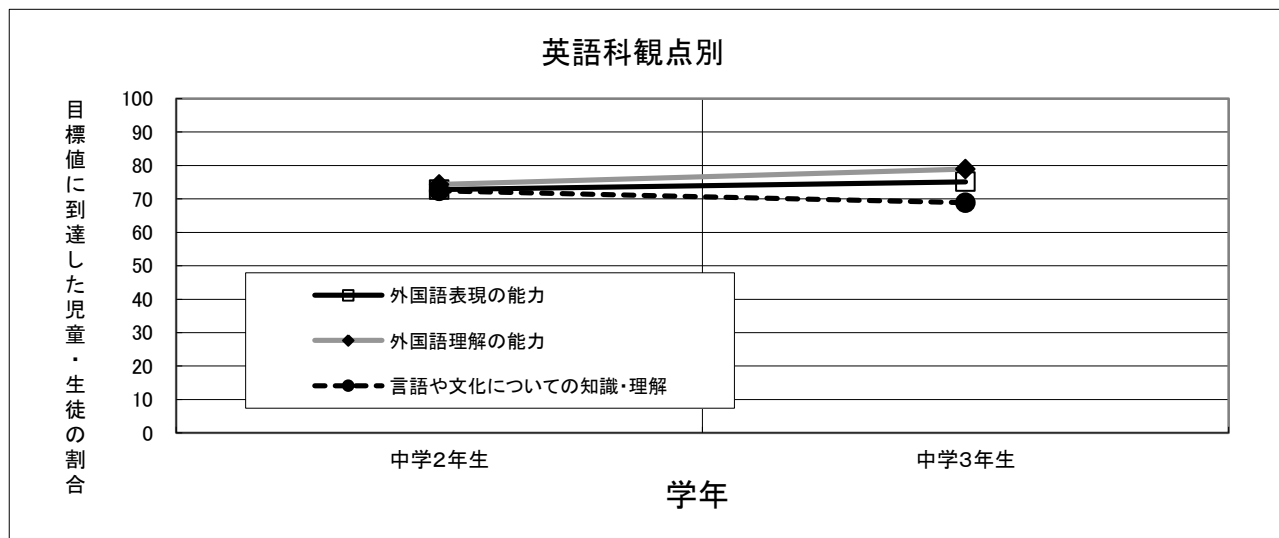
【参考】

		科学的な思考・表現			観察・実験の技能			自然事象についての知識・理解		
年度		H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
小	6年生	69.6	71.2	65.0	68.7	68.6	63.9	60.9	73.6	68.1
中学校	1年生	51.9	59.4	63.4	63.0	60.7	70.2	56.8	61.7	62.3
	2年生	61.9	62.2	66.3	53.1	61.5	59.1	55.0	64.0	59.1
	3年生	58.4	59.4	62.9	58.8	66.5	57.3	57.1	57.9	67.1

※ 太字・斜体は、平成28年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。

(5) 英語



【調査結果の分析】⇒「技能統合型の言語活動を通じた表現力の育成」

◆結果

- ・観点別の達成率において、第2学年は「言語や文化についての知識・理解」が、昨年度とほぼ同等（0.1%減）であるものの、その他の全ての観点で上昇が見られた。第3学年は、全ての観点で上昇した。また、目標値に到達した生徒の割合において、第2学年は全ての観点で、第3学年は「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」で70%を上回った。
- ・領域別正答率において、第2学年の「聞くこと」は77.0%、第3学年の「聞くこと」は78.9%と70%を上回った。同一母集団の達成率を経年比較すると、第3学年の「聞くこと」が9.1%増、「書くこと」が2.5%増と上昇した。
- ・問題別正答率における「外国語表現の能力」の観点では、「場面に応じて英作文を書く問題」において、第2学年は類型外誤答率が35%を超えており、無解答率も15%を超えていた。加えて、第3学年においては、類型外誤答が40%を超えている問題もあった。
- ・「外国語理解の能力」の観点において、第2学年は「長文の内容に関する質問に英語で答える問題」、第3学年は「対話の内容を聞き取り、資料をもとに答える問題」及び「長文の内容に関する質問に英語で答える問題」に課題が見られた。これらの問題の無解答率は、第3学年においては昨年度よりも低くなっているものの、継続して高くなっていた。
- ・「言語や文化についての知識・理解」の観点において、第2学年は「語形・語法の知識・理解（一般動詞過去の疑問文）に関する問題」、第3学年は「語形・語法の知識・理解（動名詞の形、助動詞の後の動詞の形）に関する問題」に課題が見られた。

◆課題

- ・外国語を用いて適切に作文する能力を身に付ける必要がある。
- ・読み取った情報を基に、適切に表現する力を育成する必要がある。
- ・引き続き基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていく必要がある。

◆対応策

- ・4技能をバランスよく指導するとともに、技能統合型の言語活動を充実させる。
- ・パターンプラクティスやコミュニケーション活動を行いながら、繰り返し重要表現を活用させる。
- ・具体的な場面や状況に合った適切な表現を考え、話したり、書いたりする学習活動を、年間を通じて意図的・計画的に取り入れる。
- ・長文の概要や要点等、読み取った情報を基に、問いに対する適切な語法を用いて表現させる学習の充実を図る。
- ・基礎的・基本的な内容についての指導を十分に行うとともに、ALT等を効果的に活用する。
- ・英語を活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために、今後は小学校の外国語活動においても、学年段階や学校段階における系統的な指導を充実させる。

【参考】

		外国語表現の能力			外国語理解の能力			言語や文化についての知識・理解		
		H27	H28	H29	H27	H28	H29	H27	H28	H29
中学校	2年生	59.6	66.4	72.8	66.3	71.1	74.3	66.7	72.5	72.4
	3年生	70.7	72.5	75.1	71.4	73.4	78.9	64.0	64.0	68.9

※ 太字・斜体は、平成28年度を上回ったものを示している。

※ 網掛けの数値は目標値に到達した児童・生徒が70%以上の項目を示している。